

2019年9月1日(日)／京都国際マンガミュージアム

工芸を起点に未来の社会像を考える

京都精華大学 伝統産業イノベーションセンターが初のシンポジウムを開催

2017年度、京都精華大学（所在地：京都市左京区、学長：ウスビ・サコ）に新設された伝統産業イノベーションセンターは、このたび多角的な視点で社会課題を議論するシンポジウム「We-工芸から覗く未来」を開催します。京都精華大学は、2018年度に文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受け、「持続可能な社会に向けた伝統文化の『表現』研究」をテーマに活動を展開しています。

「We - 工芸から覗く未来」

日時：2019年9月1日（日）13:00～17:30（受付：12:00-）

会場：京都国際マンガミュージアム1階 多目的映像ホール
〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル

参加費：参加無料／要事前申込

主催：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター

共催：「KYOTO KOUGEI WEEK」実行委員会

協力：文化庁、京都府、京都市、京都商工会議所

ウェブ：<http://dento.kyoto-seika.ac.jp/news/we/>

本シンポジウムでは、工芸の世界でさまざまな取り組みをおこなう方々とともにエシカル消費やエコロジー、労働環境といった社会課題について、伝統的な手仕事を起点に議論をおこないます。国連が定めるSDGsに挙げられた課題[17のゴール／169のターゲット]は、いずれも人間の営みに起因しています。私たちの未来は、“I”の集合体ではなく、“We”でこそ語られなければならないはずで、京都市は、いまも多くの手仕事が続く街。手仕事が進んできた歴史に学び、未来の社会を考えることが、世界有数の工芸の街としての責任です。

登壇者：Elisa Palomino（ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校ファッションプリント学部教員）、松山一成（松山染工）小北光浩（本学ポピュラーカルチャー学部教員）、金谷勉（セメントプロデュースデザイン代表取締役）、中川周士（中川木工芸比良工房主宰）、永田宙郷（合同会社ててて協働組合共同代表プランニングディレクター）、八木隆裕（茶筒老舗 開化堂 六代目）

司会：吉村和真（本学副学長）モデレーター：鞍田崇（哲学者、明治大学理工学部准教授）、米原有二（本学伝統産業イノベーションセンター長）

■プログラム

【第一部】ファッション素材としてのフィッシュスキンと京都の染色技術

【第二部】手仕事の、次の1000年のために

【ディスカッション】未来へのバトン



北欧のフィッシュスキンを使ったワークショップ
Photographer: Nathalie Malric
写真提供：FISHSKINLAB



鮮やかに染められたサーモンの魚革
Photographer: Nathalie Malric
写真提供：FISHSKINLAB

＜お問い合わせ先＞ ※取材いただく際は、事前に広報グループまでご連絡ください。

京都精華大学 広報グループ 植松 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町 137

Tel : 075-702-5197 Fax: 075-702-5352 E-mail : kouhou@kyoto-seika.ac.jp

We – The Future Seen Through Craft

Symposium hosted by the Center for Innovation in Traditional Industries, Kyoto Seika University and Kyoto Kougei Week 2019

2019. 9. 01 SUN

「We – 工芸から覗く未来」

京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター×
KYOTO KOUGEI WEEK 2019 シンポジウム

2019年9月1日(日) 13:00~17:30 / 受付 12:00~
会場: 京都国際マンガミュージアム1階 多目的映像ホール
参加費: 参加無料 / 要事前申込
1 September 2019 13:00-17:30 / Doors Open 12:00
Kyoto International Manga Museum 1F
Multipurpose Video Hall
Participation _ Free / Pre-registration required

KYOTO
KOUGEI
WEEK
2019



This project has received funding from the European Union's Horizon 2020 research and innovation programme under the Marie Skłodowska-Curie grant agreement No FISHSkin 823943



京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター ×
KYOTO KOUGEI WEEK 2019 シンポジウム
「We - 工芸から覗く未来」

日付:2019年9月1日(日)
時間:13:00~17:30 / 受付 12:00~
会場:京都国際マンガミュージアム1階 多目的映像ホール
参加費:参加無料/要事前申込
言語:日本語(英語通訳あり)

●シンポジウムについて

「We - 工芸から覗く未来」と題した本シンポジウムでは、エシカル消費やエコロジー、労働環境といった社会課題について、伝統的な手仕事を起点に議論をおこないます。国連が定めるSDGsに挙げられた課題[17のゴール/169のターゲット]は、いずれも人間の営みに起因しています。私たちの未来は、「I」の集合体ではなく、「We」でこそ語られなければならないはずです。京都府は、いまでも多くの手仕事が生息する街。その知見は文化や社会、経済、自然環境など多くの分野の土台となっています。手仕事が進んできた歴史に学び、未来の社会を考えることが、世界有数の工芸の街としての責任です。京都精華大学は、2018年度に文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の採択を受け、「持続可能な社会に向けた伝統文化の「表現」研究」をテーマに活動を展開しています。

●プログラム / Program

司会:吉村和真_京都精華大学副学長

○挨拶 / Opening Remarks

ウスビ・サコ_京都精華大学学長

○第一部 / Part One

“ファッション素材としてのフィッシュスキンと京都の染色技術”
Fish Skin as a Fashion Material and the Dyeing Techniques of Kyoto

登壇者
Elisa Palomino_ロンドン芸術大学セントラル・セント・マーチンズ校ファッションプリント学部教員
松山一成_松山染工
小北光浩_京都精華大学ポピュラーカルチャー学部教員
モデレーター/米原有二_京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター長

○第二部 / Part Two

“手仕事の、次の1000年のために”
For the Next 1000 Years of Handcrafts

登壇者
金谷勉_セメントプロデュースデザイン代表取締役
中川周士_中川木工芸比良工房主宰
永田宙郷_合同会社ててて協働組合共同代表ブランニングディレクター
八木隆裕_茶尚老舗 開化堂六代目
米原有二
モデレーター/鞍田崇_哲学者、明治大学理工学部准教授

○ディスカッション / Discussion

“未来へのバトン”
Passing the Baton to the Future

登壇者
鞍田崇
中村裕太_京都精華大学芸術学部教員
米原有二

●参加について / Participation

本シンポジウムは参加無料です。
以下のフォームより事前にお申し込みください。
The symposium is free to attend. Please complete the following form to pre-register for the event.
<https://forms.gle/KWdHXTt8MVBbBTH1w8>



●連絡先

京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
お問い合わせ:dento@kyoto-seika.ac.jp
WEB:http://dento.kyoto-seika.ac.jp



Symposium hosted by the Center for Innovation in Traditional Industries, Kyoto Seika University and Kyoto Kougei Week 2019
We-The Future Seen Through Craft

Date_ 1 September 2019
Time_ 13:00-17:30 / Doors open 12:00
Venue_ Kyoto International Manga Museum 1F Multipurpose Video Hall
Participation_ Free / Pre-registration required
Language_ Japanese with English interpretation

●About the Symposium

We-the Future Seen Through Craft is a platform for discussion on social issues such as ethical consumption, ecology and labor conditions in the context of handcrafts. The 17 Sustainable Development Goals set by the United Nations address the challenges we face today due to human activities. Our future needs to be discussed not as a group of individual I's but as a collective we. Handcrafts are still alive and thriving in Kyoto Prefecture and the knowledge within the field of craft forms the very foundation of culture, society, economy and the natural environment. As a region known for its crafts, Kyoto has a responsibility to learn from history and initiate dialogue on the future of our society. In fiscal year 2018, Kyoto Seika University was selected for the Private University Research Branding Project by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and has since developed projects to research traditional cultural expressions in the context of a sustainable society.

●Speakers



ウスビ・サコ



Elisa Palomino



金谷勉



鞍田崇



小北光浩



中川周士



永田宙郷



中村裕太



松山一成



八木隆裕



吉村和真



米原有二

五十音順,敬称略

●アクセス / Access

京都国際マンガミュージアム
〒604-0846 京都市中京区烏丸通御池上ル(元龍池小学校)
Kyoto International Manga Museum
Karasuma-Oike, Nakagyo-ku, Kyoto 604-0846 JAPAN
(former Tatsuike Primary School)

●Contact

Kyoto Seika University
Center for Innovation in Traditional Industries
137 Kino-cho, Iwakura, Sakyo-ku, Kyoto 606-8588 JAPAN
Email : dento@kyoto-seika.ac.jp
Website : http://dento.kyoto-seika.ac.jp

本制作物は私立大学研究ブランディング事業に係る交付金から一部支出しております。



主催:京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター 共催:KYOTO KOUGEI WEEK実行委員会 協力:文化庁、京都府、京都市、京都商工会議所
Host: Center for Innovation in Traditional Industries, Kyoto Seika University Support: Kyoto Kougei Week Executive Committee Cooperation: Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, Kyoto Prefecture;
Kyoto City, Kyoto Chamber of Commerce and Industry